

阿嘉島の蝶 part 4

上林 利憲

AMSL 調理担当

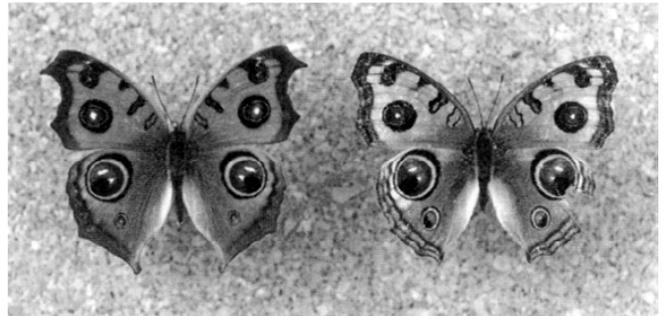
タテハチョウ科の蝶の擬態

Butterflies in Akajima Island. part 4

T. Kamibayashi

幼い頃、自転車に乗っていて、上着に飛びついてきた蜂に一瞬びっくりしたことがあります。昆虫少年だった私は、すぐにそれが蜂ではなく、アシナガバチに模様の似たトラカミキリだと気づきほっとしました。トラカミキリは鳥などの捕食者から身を守るために、アシナガバチに擬態していると言われています。

写真2 タテハモドキ



左: 秋型 (表) 右: 夏型 (表)



左: 秋型 (裏) 右: 夏型 (裏)

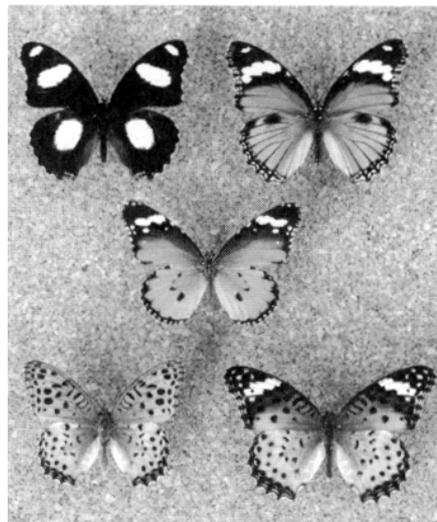


写真1

- 左上: メスアカムラサキ
- 右上: メスアカムラサキ
- 中央: カバマダラ 擬態モデル
- 左下: ツマグロヒョウモン
- 右下: ツマグロヒョウモン

阿嘉島の蝶の中にも、この昆虫と同じように擬態をするものが見られます。タテハチョウ科のメスアカムラサキの雌やツマグロヒョウモンの雌はマダラチョウ科のカバマダラに似ています。マダラチョウ科の蝶にはアルカロイド系の毒が含まれており、鳥などの捕食者がこの蝶を一度捕食すると、学習効果により二度と食べようとしなないことが知られています。マダラチョウ科と類縁関係のないこれらタテハチョウ科の2種には毒はありませんが、カバマダラに模様が似ることによってその恩恵にあずかっているようです。しかし、模様が似ているには2種とも雌だけで、なぜか雄はまったく違った模様をしています (写真1)。

一方、タテハチョウ科のタテハモドキは翅を閉じると枯れ葉にそっくりで、まわりの草木と区別がつかないほどです。しかし、それは秋型という低温期に発生した個体に見られる形態で、高温期に発生した夏型は枯れ葉のような模様ではなく、眼状紋(いわゆる目玉模様)があり、秋型の個体は夏型の個体に比べ翅がより尖っています (写真2)。

これらのタテハチョウ科の蝶は比較的明るい場所を好み、日のあたる畑や草原などでなわばり行動をとる雄の個体が観察されます。タテハモドキが平地を好むのに対して、メスアカムラサキとツマグロヒョウモンは、雑木林の山道や草むらなど、平地から山手にかけてより広範囲で見られます。これらの蝶は他の蝶に比べて個体数は多くはありませんが、毒蝶や枯れ葉に擬態することによって捕食者をあざむき、生きながらえて子孫を残しているのでしょう。